

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2870600786		
法人名	有限会社 K Y T		
事業所名	グループホーム いろいろ		
所在地	神戸市長田区御屋敷通6丁目2番26号 (電話) 078-643-3456		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年10月4日

【情報提供票より】(平成 19年 6月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	31 人	常勤	10人, 非常勤 20人, 常勤換算14.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(6月26日現在)

利用者人数	27名	男性	2名	女性	25名
要介護1	4名	要介護2	10名		
要介護3	12名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	69歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若宮病院、石川リハビリ脳神経外科クリニック、李齒科医院、協同病院、八十嶋病院
---------	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR、神戸市営地下鉄、山陽電鉄の最寄の駅より徒歩約5分程度にあり、周囲は住宅や小さな飲食店が並んでいる。ホームから歩いて行ける範囲内に、スーパーや商店街があるため、利用者は食事を作るための食材の買い出しに出かけている。ホーム開設当初より、社会とつながり地域の一員として生活することの支援を理念としており、外出時等のあいさつや地域の行事への招待、運営推進会議での話し合い等を経て、地域とのつながりがより強くなってきている。職員は利用者の「できること」「できないこと」を日々見極め、手を出しすぎず、時に利用者同士の助け合いにつながるような支援を心がけている。今後は評価をサービスの向上に十分に活用するためにも、全ての職員で点検し話し合いを行なうことが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の評価結果はホーム内にファイリングし、調査等に話し合った内容でも、利用者のアセスメント記録紙のまとめ等、改善につながりそうなヒントが得られれば積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回は各ユニットのリーダーが相談して自己評価を行っている。今後は評価をサービスの向上に十分活用するためにも、自己評価を作成する段階から全職員でかわり、取り組むことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議には、自治会長や民生委員他の参加を得て、ホームの理解促進に取り組んでいる。会議で火災等時緊急の応援体制に必要な意見があり、名札の準備も行うなどサービス向上に活かした取り組みが行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族には、毎月の「いろいろ速報」や、家族訪問時の個別の説明等で報告を行っている。また訪問時等に聞いた意見や要望もホーム内で検討し結果を、内容に応じて「いろいろ速報」で家族に示したりしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会の行事やクリーン作戦(清掃等)には利用者と共に参加したり、毎日の外出(買い物他)では地元の人々と挨拶を交わす等、なじみの関係ができています。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設当初より、利用者が認知症があっても自立した日常生活を営み、主体性を持ち互いに助け合い、地域の一員として生活することを支援することを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を意識するようユニットの入り口や事務所に掲示したり、日々のサービスに反映するために、管理者を含めて日常的に話し合う機会を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事やクリーン作戦（清掃等）には利用者と共に参加したり、毎日の外出（買い物他）では地元の人々と挨拶を交わす等、なじみの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の状態や職員の意見を参考に各ユニットのリーダーが相談して自己評価を行っている。前回評価の詳細については、ホーム内にファイリングされ誰でも供覧できるようになっている。		評価をサービスの向上に十分活用するためにも、自己評価を作成する段階から全職員でかわり、取り組むことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には、自治会長や民生委員他の参加を得て、ホームの理解促進に取り組んでいる。会議で火災等時緊急の応援体制に必要なとの意見があり、名札の準備も行うなどサービス向上に活かした取り組みが行われている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターとの連携は良くとれ、おり色々な情報提供や協力体制がとられ、地域への活動参加に役立っている。市の事業が大きく分散されていることもあり、担当課とは具体的には十分な連携がとれにくい状態である。</p>		<p>サービス向上のためには市との連携が必要と考えられるため、今後も引き続き積極的な働きかけが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「いろいろ速報」でホームの状況を報告している。家族訪問時には利用者の暮らしぶりを伝える他、個々の状況に合わせて小さなことでも随時電話連絡をとり伝えている。仕事等で一斉に集まる家族会に参加しにくい状況を勘案して、個別の懇談会を開き、利用者のことをより詳しく記録等を見せて説明している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情を受け付ける箱が職員からすぐには目につきにくいところに設置されている。訪問時や家族会等の機会には職員から積極的に話をし、意見を聞くようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>原則として職員はユニット毎で固定しているが、時には他のユニットへ応援に行くことや外出時に関わることもあり、職員は全利用者については状況を把握するように努めている。ユニットのサービス内容や現状を管理者は良く把握しており、サービスの質の維持・向上に必要なと判断する時は、職員異動を意図的に行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>関係の書籍やビデオ等をそろえ、職員に貸し出している。ホーム内に講師を招いて全員が研修を受ける機会を確保し、研修報告書の作成や話し合い等で職員を育てる取り組みを行っている。また、外部研修に関する情報も積極的に収集し提供され、本人の意欲によってさらに習熟できるようになっている。</p>		<p>利用者との会話等において、時々早口や大きな声になることがあるので、今後も職員間で注意しあうなどの取り組みが期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県の連絡会に加入し、そこで知り合った事業所、区内の事業者等との見学や勉強会の開催等交流を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には本人や家族に状態や方向を十分に相談して理解を得ている。入居後も帰宅願望の強い利用者の場合でも、経過や状態を説明しながら家族に相談し、訪問してもらう等の協力を依頼している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の生活を通して、料理の仕方などでは、利用者から感心して学ぶことも多く、おかしなことや嬉しいこと、つらいことに共感しながら、一緒に笑ったり悩んだりして、共に支え合う姿勢をもっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本意を念頭に日常生活を支える中で、利用者のしぐさや言葉から思いや意向を把握するようにしている。職員が対応の困難な場合も問題行動と捉えず、家族からも情報を聞き職員間で前向きに検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族とも相談しながら、職員は認知症があってもできることを見極めて、利用者が主体性をもって暮らせるよう検討し、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>「人は必ず変わっていく」ことを意識して、その都度個々の状態を細かく観察し、変化に合わせてスタッフ間で検討しケアを見直している。</p>		<p>介護計画が毎日のケア内容に意識されていない面も見られるため、ケア内容を見直す際に一緒に計画を見て、内容の点検がより確実に行なえることが期待される。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制をとり、病院の看護師と契約して利用者の健康維持・相談等の体制強化に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が主治医となっていることが多く、また希望に応じて別の病院にもかかっている。利用者・家族の状況により職員が通院に付き添ったり、家族に同行して情報提供する等スムーズな受診を支援している。協力病院は月に2回程度の往診があり、往診日以外でも電話等で相談できるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書の中に「看取りに関する指針」を盛り込み説明している。重度化したり、重度化が予測される状態になった場合は早めに状況を伝え、利用者の希望や医療依存度等を考慮しながら家族と話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の名前呼び方を本人や家族に確認し、それに合わせた呼び方をするなど、利用者の希望や状態に応じて関わっている。また職員間でも互いに気づいた事があれば見直し、「今月の目標」等として再確認するようにしている。記録等も職員の事務スペースの棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食材の買出しに全員で外出するなど、生活のリズムがあるので1日の予定は概ね定めている。しかし個々の利用者の体調や様子を見て個別に変更したり、思い思いに過ごせる時間を設けるなどして1日の中で過ごし方にメリハリをつけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3日は昼食・夕食を外部の業者に頼んでいるほかは、利用者と職員と一緒にメニューを考え、近所のスーパー等への買出しや調理・後片付けを行っている。利用者同士互いに助け合ったり、職員を交えて会話を楽しみながら過ごすようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では利用者の希望もあわせて日中午後や夕食後に入る方が多い。時間帯の希望を聞きながら一人ずつゆっくり入れるように調整し、利用者のことにあわせて見守り等支援している。お風呂にあまり入りたがらない方にも時間を置いたり職員が替わって入浴を勧め、入ってもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が主体的にホームで生活することを目指し、食事や掃除、洗濯等自分でできることは自分で行なえるようそれとなく支援しながら過ごしている。外出・外食等も利用者皆で行き先を決めて出かけたり、また帳簿をつける等個々の好きなことや得意なことも個別に活かせるよう機会を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しやホーム周辺の掃除、公園等への散歩、日用品等個々の買い物など、体調の良い日は何らかの形で毎日出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の出入りやユニットの入り口は自由になっているが、現状では信号や自動車等に対して危機意識無く歩いていかれる利用者もいるため、ホーム玄関は施錠している。開錠は時間帯によって注意を払いながら行ったり、他の時間も利用者の外出の意向に応じるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>利用者と職員と一緒に消防訓練を行なっている。運営推進会議で地域代表の委員より提案があり、利用者がホームの外へ避難した時にホーム利用者であることがわかれば協力しやすいと提案があり、避難時用の首かけ式名札を用意している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>米飯は一定量に量って提供し、毎回食事摂取量も記録する等栄養のバランスには気をつけている。全体水分摂取については、お茶の時間を設け、ホーム台所にいつでも飲めるようお茶を用意し、外出時にもお茶を持って行き飲んでもらうようにしている。</p>		<p>食事には気を配っているのですが、さらに1年に数回でも、定期的に栄養士等に食事摂取についてアドバイスを受けてはどうか。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム周りのベランダスペースには花を置き、季節が感じられるようにしている。また居間にはテレビの側に本棚があり、雑誌や本が並んでいる。各階窓を広くとり、気候の良い時は窓を開けて風を通し、職員はホーム内の様子を見ながら照明や空調の調節をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具等は全て持ち込んでもらうように働きかけ、ベッドやタンス、洋服かけ、椅子、カーペット、写真や小物等を自由に持ち込んでもらい、その人らしい部屋作りを支援している。</p>		

 は、重点項目。